

大学の日本語クラスにおけるジャーナル・ライティングの効用

坂本恵美

1. はじめに

1960年代後半から広範な分野でジャーナル・ライティングの効用が論議され始めて久しい。英語を母国語とした学習者の言語能力を向上させるために、学習の一環として使われたジャーナル・ライティングのケース・スタディを始めとして、言語修得以外の自然科学の分野においても、ジャーナルが学習者の能力向上のために非常に役立っているという研究結果が多くの論文で発表されている。又、この研究結果をもとに数多くのESL（第二言語としての英語）のクラスでもジャーナルを使って学習者の言語能力を向上させる試みが報告されている。

本文では1991年から現在までオタワ市のカールトン大学日本語コースで行なっているジャーナル・ライティングの試みについての報告を行ないたい。初級段階では全くあるいはほとんど日本語の知識のない学習者を対象にして、クラス内ではローマ字は使わず、初めから「ひらがな」を導入し、かなり早い時期から意味の上でまとまりのあるものを書く機会を与えて日本語修得の助けとする方法をとった。これまでのいわゆる伝統的な日本語教育においてはある程度の基礎的な文法を修得するまでは文章を続けて書くという練習はあまり積極的に取り入れられていないという現状がある。そのため、読み書きの分野では言語学習は文法中心の練習にかたより、ほとんど自分の言いたいことを日本語で表現する機会が与えられていなかった。しかし、このカールトン大学でのジャーナル・ライティングの試みでは学習者に修得した日本語を各自が各々の目的に沿って使える機会を与えることを目的としている。学習者が表現したいことを日本語で表わすことが第一の目的のため、文法上の誤りや書き間違いは訂正せず、読み手に意味が通じることが大切であることを重視した指導を行なっている。

2. ジャーナルの定義

ジャーナルの日本語訳は通常「日記」ということになると思うが、ここでいうジャーナルは、日記から連想する日常起こったことを書き記すものだけに限らないという点を指摘しておきたい。従来のジャーナル・ライティングでは、1) 学習記録（いわゆる learning log）の形式、2) 学習者の自由な考えや感想を述べる形式、3) 教師と学習者との意見交換の形式、4) 日記形式等、様々な形でジャーナルが使われている。カールトン大学の日本語コースで行なったジャーナル・ライティングでは、学習者の興味を持っていることを自由に表現する機会を与えることを一番の目的としているため、学習者は一定の形式にとらわれないで、各自の選択によるトピックでそれに相応な様々な形で文章を書くことができるようになっている。学習者によっては、自分で創造した話を書き続けるなどがいい例であろう。

3. 日本語コースにおけるジャーナルの目的・役割

カールトン大学における日本語コースにおけるジャーナルの目的は以下のようにまとめることが

できる。

- 1) なるべく早い時期から学習者に習得した日本語を意味の上でまとまりのあるものとして書く機会を与える。
- 2) 学習者自身が興味をもっていることを各自の能力の範囲内で自由に表現する機会を与える。
- 3) 学習者の表現したいことを読み手に伝えることを一番の目的とし、そのため正確な言語構造に焦点をあてること以上に内容を重視することに焦点を当てた指導を行なう。
- 4) 間違いの訂正を行なわないので、学習者には評価にとらわれない 自由・実験的に表現できる場が与えられる。
- 5) ジャーナルの交換により、学習者と教師とのより良い意志の疎通をはかることができる。

4. カールトン大学の日本語コースの概要

ここでは、カールトン大学の日本語コースでは どのような状況の中でジャーナルが使われているかについての簡単な説明をしておきたい。

1) 学習者

学習者の大半はフル・タイム及びパート・タイムの大学生で、英語系・仏語系カナダ人が多数を占めるが、外国人学生（特に中国人学生）の占める割合も年々増えてきている。

2) コース内容

初級クラスは集中コースで、週8時間の教師による授業がクラスで行なわれ、年間の総授業時間数は約200時間である。授業内容は、初めから「聞く・話す・読む・書く」の四技能を全体的に導入し、会話の授業、読み書きの授業という分け方はしていない。中級クラスは週3時間のコースで、年間授業時間数は約70時間程度である。初級・中級共、教科書は筑波大学（筑波ランゲージグループ）による "Situational Functional Japanese" (Volume I, II, III) のシリーズを使い、できるだけ機能中心のカリキュラムを組むようにしている。

3) ジャーナルに於ける使用言語

本文の初めに述べたように、初めから「ひらがな」を導入し、教師は教室内では原則として「ローマ字」は一切使用していない。（但し、教科書の中では、はじめの部分にはローマ字表示があるので、学習者には助けとなっている場合もあるかもしれない。）

4) ジャーナルの使用法

ジャーナル・ライティングは1991年から現在まで、初級、中級のクラスで続けられている。前にも、述べたように ジャーナルの最大の目的は学習者に習得した日本語を意味の上でまとまりのあるものとして書く機会を与えることである。そのため、ジャーナルのトピック及び長さは、学習者による自由な選択に任されている。ジャーナル提出の頻度は週一回で、これはコースの必修内容の一つであり、年毎によって多少の差はあるが、全体の成績評価のうちで5-10%を占めている。

初級クラスでは、ひらがながある程度書けるようになるまでの初めの二週間は学習者の日本語学習に対する反応・感想を英語で書くことになっているが、この段階ですでに日本語でジャーナルを書いている学生が数多くいることも指摘しておきたい。但し、内容は非常に簡単な自己紹介程度のものである。

ジャーナルの最大の目的は学習者の表現したいことを読み手に伝えることで、多少の間違いがあっても内容が理解できれば、その目的は達せられるため、間違いの訂正は一切行なわない。但し、内容がはっきり分からない場合は質問を書き加えて返し、内容の理解が明確にできるようにすることを学習者に促している。教師は、毎回内容についてのコメントを書いて学習者に返している。このコメントのやりとりを通して、学習者と教師との意見交換にもなり、よりよいコミュニケーションをはかることにもつながっている。

ジャーナルの個別評価は、内容に対するコメントを書く以外には行なわないが、年間を通してのジャーナル・ライティングに見られる全体的な内容・日本語運用能力の向上に対する評価を行ない、それは、最終的な日本語コースの成績評価の一部を占める。参考のため、その他の評価基準（1995-1996年度）もここに書き加えておく。

毎週のクイズ（中級は隔週）

期末試験

オーラル・テスト（年間6回、中級は年間4回）

作文・聴解練習課題（各課毎に）

ポスター・セッション（中級はスピーチ）

5. 学習者のジャーナル例

ジャーナル例1から4を使って、つぎの点1) 内容、2) 長さ、3) 文の構造、4) 使用語彙の変化、5) 使用文字の変化、等に注目してジャーナルの特徴を検討してみたい。

例1は初期のジャーナルと後期のジャーナルの違いがはっきり見られる例である。一見して分かるように、文章は長くなり、文の構造も様々な形（動詞文、形容詞文etc.）が使われている。使用文字もひらがなだけから、漢字・かな混じり文への変化がはっきり分かる。語彙、及び内容も、簡単な表現から、もう少し進んだ表現への明確な変化が見られる。

例2は、様々な絵、写真、漫画等を使用した例である。これを見ると、学習者の興味をもっているものを日本語で表現する手段としてジャーナルが非常に有効であることがはっきり分かると思う。ジャーナルという場がなければ、学習者達は このように日本語を楽しんで使う機会には恵まれていないというのが現状ではないだろうか。課題作文を通して学習者が学ぶことは勿論数多くあるが、自分の興味を持っていることを日本語で表現する機会を与えることの大切さも認識する必要があるのではないだろうか。

例3は、日本語コースの初めから抜群の能力を示し、かつ常に進歩のめざましかった学習者の例である。ジャーナル#2（2週間の授業後で、ひらがなはクラスではまだ全部学習していない）から分かるように、この学習者は16時間の日本語クラスの後でこれだけのものが書ける能力がある。殆どの学生が数行の自己紹介をしているジャーナル#3の段階で、この学生は既に 殆ど1頁の文

章を書き、過去形の文まで書いている。又、最後のジャーナルの語彙の豊富さ、数多くの複文の殆ど適切な使い方、中国人としての漢字の知識を非常に有効に使っている点等、群を抜いた進歩のめざましさがはっきり見てとれる。この学習者は日本語授業からだけでなく、日本人の友達を通して日本の文化、習慣、そして多くの日本語の知識も学んだことがジャーナルを読んでみるとよく分かる。このような学習者のためにもジャーナルの果たしている役割は大きいと思う。ジャーナルがなければ、これだけの事を書く機会には恵まれなかっただろうし、またこのジャーナル・ライティングによって、自分のペースで、自分の言い表わしたい事を表現することが可能になったということができる。ジャーナルの長所の一つはこのように学習者が各々のペースで、自分の能力の範囲内で色々なことを、自由に、実験的に表現できることである。

例4は、一人の学習者の「私は魚じゃありません。」をテーマにしたジャーナルの例である。この学習者はジャーナル#2から「私は魚じゃありません。」という文を中心に、殆ど毎回新しく学習した項目を上手に使う「魚」についての話を書き続けていった。話の基本を自分の興味のある「魚」におき、あまり複雑な構文も使わずにクラスの中で習ったことを自分なりに工夫して、毎回物語を創り上げて行った。このようなユニークな例は数の上では必ずしも多いとは言えないが、非常に興味深いと言えるだろう。従来からの作文課題からは、こういう形のものが出てこなかっただろうと思うし、このような楽しみもジャーナルがあってこそである。

6. 学習者の感想・評価

学年末に、日本語コースの内容に関するアンケート調査を行なっているが、学習者のジャーナルに対する評価は全体的には非常に肯定的で、日本語学習への貢献度が大きいと述べているものが多数を占めている。又、多くの学生がジャーナルは習得した日本語を各自の目的に沿って使う良い機会だとも述べている。一方、自分の表現したいことが限られた日本語の言語能力では実現できないとして欲求不満を起こしている学生がいることも否めない。但し、これは、現実問題として避けられない課題で、学習者は自己の言語能力の限界を認識する事が必要である。

7. その他のジャーナルの長所及び短所

今まで述べてきたジャーナルの特徴の他に、学習者のジャーナルを日本語授業の読解練習用に取り入れることができるという利点も書き加えておきたい。ジャーナルの文章は、日本語学習のために教師によって書かれた人為的な文ではなく、学習者が作り上げたものであり、初級クラスに適切なレベルの読解教材として使うことができる。

ジャーナルの利点は数多くあるが、問題がないわけではない。最大の問題点は、日記と同じ内容のことを続けて書く傾向の学習者がいることである。これは、学習者にとっては、語彙、文法共、あまり創意工夫を行なわなくても済む安易な方法ではあるが、言語能力は殆ど進歩しないし、書き手、読み手にとっても面白みのないものとして終わってしまう。もう一つの問題点は、毎週のトピックを考えることの難しさを訴える学生がいることである。但し、この問題はクラスの中で学習者のブレン・ストーミングによるアイデア提供の場を作ることによって解消することができる。

8. 結論

繰り返し述べてきたように、ジャーナル・ライティングは日本語学習の初級レベルの段階から、1) 学習者に習得した日本語を自己の目的に合わせて使う良い機会を与えるばかりでなく、2) 学習者の自由な選択によるトピックに合わせて習得した日本語を様々なアイデアの表現手段として使うことができるという点でも非常に効果的であるといえる。また、3) 読み手を意識した内容重視の日本語運用の機会を提供し、正確な言語構造だけにとらわれない自由な表現の場を提供するという面でも、より良いコミュニケーションをはかる上で非常に有効であると思われる。日本語教育の一環としてジャーナルが多くの方に取り入れていただければ幸いである。

(カールトン大学)

参考文献

- D'Arcy, P. "Writing to Learn." In T. Fulwiler (Ed.), *The Journal Book* (pp.41-46), Portsmouth, NH: Boynton/Cook, 1987.
- Ellis, Rod. "The Structural Syllabus and Second Language Acquisition." (pp.91-113) *TESOL Quarterly*, Vol.27, No. 1, Spring 1993.
- Fulwiler, T. *The Journal Book*, Portsmouth, NH: Boynton/Cook, 1987.
- Fulwiler, T. "Writing and Learning, Grade Three." In T. Fulwiler (Ed.), *The Journal Book* (pp.193-200), Portsmouth, NH: Boynton/Cook, 1987.
- Kreeft Peyton, J. ed. *Students and Teachers Writing Together*, Alexandria, Virginia, U.S.A.: Teachers of English to Speakers of Other Languages Inc., 1990.
- Kreeft Peyton, J. "Dialogue Journal Writing and the Acquisition of English Grammatical Morphology." In J. Kreeft Peyton (Ed.), *Students and Teachers Writing Together*, (pp.65-97), Alexandria, Virginia, U.S.A.: Teachers of English to Speakers of Other Languages Inc., 1990.
- Lowenstein, S. "A Brief History of Journal Keeping." In T. Fulwiler (Ed.), *The Journal Book* (pp.87-97), Portsmouth, NH: Boynton/Cook, 1987.
- Lucas, Tamara. "Personal Journal Writing as a Classroom Genre," In J. Kreeft Peyton (Ed.), *Students and Teachers Writing Together*, (pp.99-123), Alexandria, Virginia, U.S.A.: Teachers of English to Speakers of Other Languages Inc., 1990.
- Nathan, R. "I Have a Loose Tooth and Other Unphotographable Events: Tales from a First Grade Journal." In T. Fulwiler (Ed.), *The Journal Book* (pp.187-200), Portsmouth, NH: Boynton/Cook, 1987.
- Sandler, K.W. "Letting Them Write When They Can't Even Talk? Writing as Discovery in the Foreign Language Classroom." In T. Fulwiler (Ed.), *The Journal Book* (pp.312-320), Portsmouth, NH: Boynton/Cook, 1987.
- Staton, J., R.W. Shuy, J.K. Peyton, L. Reed, *Dialogue Journal Communication: classroom, Linguistic, Social, and Cognitive Views*. Norwood, NJ: Ablex, 1988.
- Vanett, L. & D. Jurich. "A Context for Collaboration: Teachers & Students Writing Together." In J. Kreeft Peyton (Ed.), *Students and Teachers Writing Together*, (pp.49-64), Alexandria, Virginia, U.S.A.: Teachers of English to Speakers of Other Languages Inc., 1990.
- Vanett, L. & D. Jurich. "The Missing Link: Connecting Journal Writing to Academic Writing." In J. Kreeft Peyton (Ed.), *Students and Teachers Writing Together*, (pp.21-34), Alexandria, Virginia, U.S.A.: Teachers of


English to Speakers of Other Languages Inc., 1990.

ジャーナル例 1 : 初期のジャーナルから後期のジャーナルへの変化

千九百九十二年一月二日
はじめまして。
あなたのB.E.R.N.I.C.E.と申します。
どうやらよろしくおながらいます。
わたしはわがくさいです。
せんもんかげいじです。
あまらわ
まいにち日本語をべんしょうします。
いいですね！
さかもと

3rd entry

千九百九十二年二月二十一日
Best entry
私はハ
私はカルトン大学の学生です。
私はカルトン大学の日本語をへんしょうします。
月曜日と火曜日と木曜日と金曜日。私は日本語のクラスへ
行きます。
さかもと先生は左のいいとせんせつです。
毎日さかもと先生は日本語のクラスへきます。
さかもと先生はいいです。
日本語のクラスはとてまたのいいです。
マさんはスマイルです。
カさんは顔面友です。
ウさんはゆつめいです。
誰も皆はさます。
デさんはゆめいといひます。
スさんはとてまたかいてす。
は解かです。
ラさんはとてまた珍しいです。
スさんとマさんは毎日日本語クラスとせんしょうします。
マルさんとバさんは選いクラスへさます。
日本語のクラスはとてまたもしろいです。
はさます。
いいですな

1st term
4th entry
10/8
しようがようか
きょうはとよびです。

かわいいですね!
こちらはAnnさんです。わたしのおねえさんです。○
おねえさんのすまはたんすとすげとです。
すげとはじょうすです。
せんもんはAccountantです。
たいすまはすしとさしみです。
わたしもすまはすしとさしみです。
すしとさしみはおいしいです。
どうもありがとう。
わたしおすしとさしみがだいすきです。
ブリッラさんはスケートがじょうすです。
さかもと

2nd term
二月四日
本日も1994年11月10日に
行かれた。高校の友だち
といっしょにハワイに行きま
した。ハワイはいいです。毎日
おひる見物をして
買物もしました。ハワイは
おもしろいでした。毎日
ハワイでショッピングを
しました。日本人は
多かったです。1993年に日本語を
分りませんでした。日本人と英語
を話しました。日本人はしんせつ
でした。それから、珍珠港に行き
ました。ウィンニーさんと
じゃんとりました。それから、ハ
ワイの文化センター
に行きました。ハワイの文化は
おもしろかったです。私と
ウィンニーさんとハワイは
大好きでした。1993年のスマ
はとてまたのしかたです。



はじめまして。
 OXFORD だいがくの MARY です。
 どうぞよろしく。
 せんせいはアツワグです。
 くにはイギリスです。
 たんじょうびは12月20日。
 わたしのくつはたかいです。
 わたしのワイシャツは
 ぶろいです。



3rd entry
 3月4日

はじめまして。CINDYです。
 どうぞよろしく。
 せんせいはアツワグです。
 くにはアメリカです。
 たんじょうびは3月23日。
 わたしの髪はブレイクです。
 わたしのコンピューターは
 たかいです。



はじめまして。CINDYです。
 どうぞよろしく。
 せんせいはアツワグです。
 くにはアメリカです。
 たんじょうびは3月23日。
 わたしのコンピューターは
 たかいです。

はじめまして。
 YALE だいがくの SHARON です。
 どうぞよろしく。
 せんせいはアツワグです。
 くにはカナダです。
 8じに生まれます。
 ハイキアが、こうにまします。
 たんじょうびは6月12日。
 わたしのとけいはやさいです。



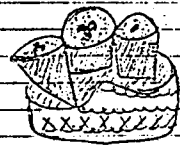
2nd term

1. Feb. 95

すしをつくりにかた

材料 =

- ① ごはん
- ② さとう
- ③ すし
- ④ うり



I. California roll 方法:

1. のりのうえにごはんをのせてまきます。
2. のりのうえに「まぐろ」と「たまご」とかにをのせてまきます。

II. ツツまき方法:

1. のりのうえにごはんをのせてまきます。
2. のりのうえに「たく」をのせてまきます。

III. あしんこまき方法:

1. のりのうえにごはんをのせてまきます。
2. のりのうえに「たく」と「あしんこ」をのせてまきます。

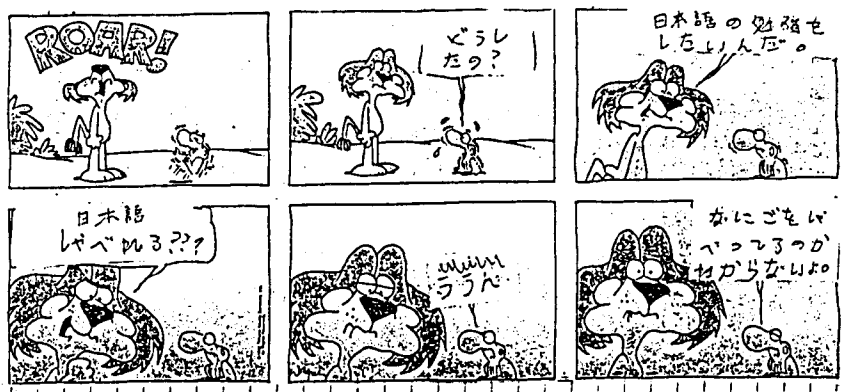
IV. かっぱまき方法:

1. のりのうえにごはんをのせてまきます。
2. のりのうえに「たく」と「かっぱ」をのせてまきます。

このおすしは私に好きです。とてもおいしいです。

おいしいです。おすしの方法はやさしいですか。

材料はたかいです。



ライオンですね。かわいい。
 とてもおもしろいですよ。
 たのしいですね。かわいい。
 下す。とてもおもしろいです。
 が、知はるとも、おもしろいです。
 した。おもしろいです。
 この話は私がつくりました。
 2nd term
 二月十日

ジャーナル例 4 : 私は魚じゃありません。

I've tried to stop romanizing everything I try to read, but for words I'm not used to saying, it isn't easy. It's coming though; I feel that at least I'm improving; I don't feel so lost and I don't feel so stupid.

It's nice to see things written down; I understand so much more this way. I don't remember things, & unless they can be visualized in my brain, I finally can remember "onegalshimasu" because I can see it. Knowing grammar makes me feel better too, because I always grasp that very quickly (at least when I'm writing...)

I made sure that I put in a lot of effort this time to write the characters for dictation and to say them so I might - it's nice to know that it paid off. How if I can just practice all that vocabulary... It's kind of funny, too, that it's easier for me to pronounce Japanese words when they're written in hiragana, instead of roman letters. I will have to stick to hiragana, I guess.

You are absolutely right!
わたしは Wendy です。わたしのくには カマコ です。
わたしは かぐせい です。わたしの たのい かは
カノキ です。わたしの せんじん は えいご です。
わたしの せいしん じふは 4月10日 です。
とて おいそいそ。いそいそ。

I can write other things for practice too, such as:
わたしは 魚じゃありません。(yes, I did mean to write
I am not a fish. 魚じゃありません。わたしは 魚じゃありません。
わたしは 魚じゃありません。わたしは 魚じゃありません。
わたしは 魚じゃありません。You get the idea...

2nd term

魚の話

週十一

魚のフレッドさんがいた。フレッドさんは小さかった。あ
たわかいのてはるが好きなた。ほろた」とたかさん泳い
た。たかさん食物が あったが フレッドさんは えさを 食べか
かった。ちとを 魚 たった。フレッドさんは なつも 好きな かなつ
た。たかさん人は 魚と。フレッドさんは 一ひんか
てた」とおまった。あきになつと。うすれか。フレ
ッドさんは つかれた。えう前に たかさん 食べた。(おし、たか)
二水に 泳いだ。フレッドさんは 20km ぐり まつ 行つて、
えさを 食べて、40km ぐり 泳いだ。二水は とおつた。三水に
行つたあとで、ヘッドを見つけた。たかさん 着は 泳い
た。たかさん。ふりになつと。たかさん。ねた。



WEEK 11

わたしは さかなじゃありません。さかなは おもしろくないです。
さかなは きれいじゃありません。さかなは すいえいがか すきです。
さかなは すいえいのか じょうずです。わたしは すいえいのか じょうず
じゃありません。わたしは すいえいのか すきじゃありません。
わたしは えいごを べんぎょうします。さかなは えいごを
べんぎょうしません。さかなが よみません。さかなが かきません。
さかなが えいごを はなしません。さかなが たのいがか へいきません。
さかなが 本やごえいごの本を かいしません。わたしは えいごの
本が すきです。わたしは としよかんが すきです。
さかなは 女に ちねべますか。さかなが にくかへいきません。
さかなが やおやへいきません。さかなが すーはーへい
きません。さかなが さかなを ちねべますか。わたしは さかな
を ちねべません。わたしは さかなを へいきません。さかなも
さかなを へいきます。さかなが さかなを ちねべ
ません。さかなが かいしません。さかなが 50%
すきじゃありません。(lucky さかな X)

とて おもしろいですね!!!

さかなは さかなで さかなを かって、さかなを
たべますか?

さかなは さかなで さかなを かいしません。

さかなは さかなを たべますか? さかなは

ウェンディさんが すきですか???

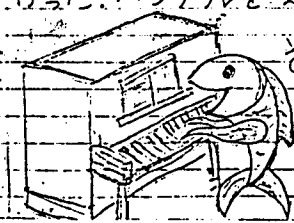
おはは

2nd term
last entry

三はん 魚の話

週十二

魚のフレッドさんがいた。フレッドさんは ピアノが 好きだった
が フレッドさんは 手は なつた。フレッドさんは ピアノが 下手
だった。フレッドさんは ヘンデルさんが ヘンデルさんは
たかさん わかん 好きな た。フレッドさんも ショパンさんが
大好きだった。フレッドさんは ショパンに ピアノを えんそう
して かん、うれいになった。「ワルツに A」は きれいだ。
フレッドさんは まじめだ。ちずから かったが フレッド
さんは んんが した。ねな かった。食べか かった。
たかさん んんが したあとで、いい ピアノの 学生
になった。フレッドさんは 「ワルツに A」を えんそう した
た。ヘンデルを えんそう した かったが フレ
ッドさんは うれい かった。



「ワルツに A」を えんそう した。
とて たのい かった!